

実務経験のある教員等による授業科目 令和5年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
基礎分野	1	心理学	2	森月 義雄	医療法人や短大等で臨床心理カウンセラーの経験（現役）を活かし、心理学の基礎知識、自己理解や他者理解を深めコミュニケーション能力の向上を目指し、脳科学の知識についても講義する。
基礎分野	1	英語 I	1	嶋本 ローラ	大手企業の英文チェックや翻訳を担当していた経験を活かし、ネイティブスピーカー派遣会社設立。ネイティブスピーカーならではの会話を中心とした授業構成で、音楽を聴いたり英語でゲームなどを行い英語に慣れ親しむことを中心に教育する。
専門基礎分野	1	歯牙解剖学	2	丸山 健	歯科医師（現役）の経験を活かし、口腔を中心とする解剖学的名称や基礎知識を講義する。
専門基礎分野	1	病理学	2	前田 初彦	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病気や疾患の基本について学び、その診断方法や治療法あるいは予防法を講義する。
専門基礎分野	1	微生物学	2	堀江 真弓	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病原性微生物の性質や疾病についてや医療現場による感染予防について講義する。
専門分野	1	歯科衛生士概論	2	前田 順子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、歯科衛生士の業務、歴史、法律、倫理、組織や役割について講義する。
専門分野	1	保存修復学	1	村田 公成	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、むし歯等による硬組織の欠損部の進行を阻止し、修復方法を講義する。
専門分野	1	歯内療法学	1	天野 一晴	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯髄疾患や根尖歯周病治療についてや臨床実習において治療の土台となる歯内療法を講義する。
専門分野	1	歯周療法学	2	神谷 英道	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、臨床経験を基に歯周病の予防と治療の基本的な知識及び技術について講義する。
専門分野	1	歯科補綴学	2	有馬 達也	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯科衛生士日関連している歯科補綴学を臨床に即した面から、補綴治療の基本的な知識について講義する。
専門分野	1	矯正歯科学	2	志村 法子	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、矯正歯科治療の概要、正常咬合と不正咬合など、臨床で歯科衛生士業務に必要な技術を講義する。
専門分野	1	歯科予防処置 I	3	小池 美佳	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、予防処置の基礎から専門的な知識・技術までの指導を行う。
専門分野	1	歯科保健指導 I	1	前田 順子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、健康や歯科医療に対する関心を持って歯科保健指導が行えるよう、基礎的な知識・技術を指導する。
専門分野	1	栄養指導	2	小島 千佳	管理栄養士の資格を有し、病院・歯科医では栄養指導・管理栄養士業を担当。講演や健康と食について健康教室を開く。いままでの経験を活かし、栄養指導の重要性、食事の重要性を講義する。
専門分野	1	歯科診療補助 I	3	川上 理永	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、患者に対する業務と歯科診療の介添えについてを指導する。

実務経験のある教員等による授業科目 令和5年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
専門分野	1	歯科材料	2	永井 伸幸	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、組成と口腔内環境における物質的性質や生物学的性質ならびにこれらの性質に影響を及ぼす取り扱い方を講義する。
基礎分野	2	英語Ⅱ	1	嶋本 ローラ	大手企業の英文チェックや翻訳を担当していた経験を活かし、ネイティブスピーカー派遣会社設立。ネイティブスピーカーならではの会話を中心とした授業構成。英語Ⅰで習った会話中心のスキルを活かし、コミュニケーションのための英語を中心に教育する。
基礎分野	2	体育	1	玉田 鷹士	大手スポーツジムにてグループエクササイズを担当の経験を活かし、ボールやナノチューブを使用した体力づくりを中心としたに実技指導を行う。体を動かすことでリフレッシュし、健康に不可欠ということを体感させる。
専門基礎分野	2	薬理学	2	近藤 玲子	薬剤師の資格を有し薬局に勤務（現役）、その経験を活かし、薬物の知識・作用・副作用について講義する。
専門分野	2	歯科臨床概論	2	齋藤 輝海	病院口腔外科の臨床現場での歯科医師（現役）経験を活かし、口腔機能の重要性や歯科臨床の一連の流れについて講義する。
専門分野	2	歯科予防処置Ⅱ	2	遠山 麻希子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、相互実習を通じ予防処置の専門的な技術を指導する。
専門分野	2	小児歯科	2	榊原 章一	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、成長過程である小児期の口腔領域について学び、問題点や予防・処置方法を講義する。
専門分野	2	障害者歯科	1	岡 義郎	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、障害の概念、歯科医療に必要な介助法ならびに歯科保健指導を講義する。
専門分野	2	歯科保健指導Ⅱ	1	前田 順子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、基礎的知識・技術を指導し、臨床および地域歯科保健活動において、専門的立場より支援できる能力が習得できるよう指導する。
専門分野	2	食育実習	2	平井 恵子	管理栄養士の資格を有し、栄養管理士会主催等の講演や健康と食について健康教室を開く。いままでの経験を活かし、食についての重要性や保健指導力を教える。
専門分野	2	看護法大意	1	竹下 裕子	看護師免許と歯科衛生士免許を有する。それぞれの臨床実習経験があり、その経験を活かし看護の概念・技術・実務につて講義する。
専門分野	2	放射線	1	清水 大行	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、口内法エックス線撮影、パノラマエックス線撮影、放射線治療と口腔管理、歯科衛生士の役割について講義する。
専門分野	2	医療保険	1	柴田 芳紀	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）や歯科医師会社会保険部の職を歴任。その経験を活かし、健康保険診療上の必要事項を講義する。
専門基礎分野	3	摂食・嚥下	1	小牧 侑紀	大学病院の臨床現場での歯科衛生士（現役）の経験を活かし、歯科衛生士が摂食・嚥下障害のリハビリテーションを実践できるようにする為の知識・技術を講義する。
専門分野	3	高齢者歯科	1	高濱 豊	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、加齢による身体的・精神的変化と疾患、高齢者の特徴・接し方・医療と介護・歯科衛生過程について講義する。

実務経験のある教員等による授業科目 令和5年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
専門分野	3	歯科保健指導Ⅲ	1	藤井 広美	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、ライフステージごとの口腔保健管理論を講義し、実習を通じて実践力を指導する。
実務経験のある教員等による授業科目合計単位数			49		

■科目別授業計画表

科目名	心理学	授業形態	講義
担当講師名	森月 義雄		
科目内容	心を学ぶ心理学。心とはなんですか？心という言葉は誰もが知っていますが他人に説明しようと思うと難しいですね。たとえば、悲しいから涙が出るのか、涙が出るから悲しいのかどちらでしょうか。又、よく共感といいます但他人の気持ちを感じずることは本当にできるのでしょうか？そんな疑問も含め、人間の心について様々な角度から理解します。その理解は将来、いやいまあなたが生きている日常生活から役立つものでしょう。今話題の脳科学の知識も交えながら学んでゆきます。		
到達目標	多岐にわたる心理学の基礎知識の習得。		
担当教員実務経験	医療法人や短大等で臨床心理カウンセラーの経験（現役）を活かし、心理学の基礎知識、自己理解や他者理解を深めコミュニケーション能力の向上を目指し、脳科学の知識についても講義する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	プロが教える心理学のすべてがわかる本（ナツメ社）		
授業内容	<p>1回目：はじめに（心理テスト）</p> <p>2回目：学習・行動</p> <p>3回目：動機・欲求</p> <p>4回目：感覚・知覚・認知</p> <p>5回目：記憶</p> <p>6回目：個人と集団（1）</p> <p>7回目：個人と集団（2）</p> <p>8回目：人格・性格（1）</p> <p>9回目：人格・性格（2）</p> <p>10回目：発育・発達</p> <p>11回目：生涯発達心理学（1）</p> <p>12回目：生涯発達心理学（2）</p> <p>13回目：発達障害</p> <p>14回目：心理療法の理論と実践</p> <p>15回目：まとめ</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	社会学（人間関係論）	授業形態		講義	
担当講師名	丸山 健、内田 明夫				
科目内容	我々の生活・社会は、人と人の係わりや活動によって成り立っており、そこには様々な現象がみられる。そこで、社会および社会的現象について社会学的視点からいくつかのテーマにそって考えていこうとするものである。				
到達目標	社会および社会的現象について見方・考え方を養う。				
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]				
単位数	<u>2</u> 単位				
使用教材	プリントを使用				
授業内容	<p>1回目：オリエンテーション ・本講座の意義</p> <hr/> <p>2回目：私たちは行為する（1） 行為の基本的要素・種類・類型、欲求段階説</p> <hr/> <p>3回目：私たちは行為する（2） 行為の資源、価値・規範、社会化</p> <hr/> <p>4回目：社会学で考える（1） 「うわさ」</p> <hr/> <p>5回目：集団について（1） 社会学と集団、集団のメカニズム、集団の分類</p> <hr/> <p>6回目：集団について（2） 集合体、群集の行動、大衆の行動</p> <hr/> <p>7回目：高齢社会を迎えて（1） 高齢化その要因、出生率の低下の影響</p> <hr/> <p>8回目：高齢社会を迎えて（2） 高齢化のもたらす経済面と社会面への影響</p> <hr/> <p>9回目：社会とメディア メディアへの依存 ゲートキーパー メディア社会を生きる</p> <hr/> <p>10回目：情報と社会（1） 自己成就的予言 自己破壊的予言</p> <hr/> <p>11回目：情報と社会（2） 自己成就と自己破壊 戦略的な予言</p> <hr/> <p>12回目：情報と社会（3） メディアが因果を逆転する 予言が自分を犠牲にする</p> <hr/> <p>13回目：個人の行為選択の社会的影響（1） 社会的ジレンマ</p> <hr/> <p>14回目：個人の行為選択の社会的影響（2） フリーライダー</p> <hr/> <p>15回目：個人の行為選択の社会的影響（3） 集団の凝集性 より深い学びのために</p>				
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）				

■科目別授業計画表

科目名	生物学	授業形態		講義	
担当講師名	宇都宮 森和				
科目内容	地球上に生命が誕生し、生物がどのように進化してきたかを学び、生物の営みの巧みさや見事さに触れる。その中で、生命が連続する仕組みや環境との関わりなどを知り、生物としての人間の体についての理解に努める。				
到達目標	生命についての基礎的な知識を身につけたうえで、人間の体の仕組みや働きについて理解を深め、今後の学修に生かそうとする態度を育む。				
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]				
単位数	<u>2</u> 単位				
使用教材	歯科衛生学シリーズ 生物学 (医歯薬)				
授業内容	<p>1 回目：地球 4 6 億年の歴史と生命の誕生、生命の定義</p> <p>2 回目：細胞の変遷と生物の進化</p> <p>3 回目：細胞をつくる物質と細胞の構造</p> <p>4 回目：細胞小器官のはたらき</p> <p>5 回目：細胞のさまざまな活動</p> <p>6 回目：細胞の一生と単細胞生物・多細胞生物</p> <p>7 回目：ヒトの組織と器官の仕組みやはたらき</p> <p>8 回目：生殖の方法と仕組み</p> <p>9 回目：遺伝とその法則</p> <p>1 0 回目：遺伝と DNA</p> <p>1 1 回目：発生とその仕組み</p> <p>1 2 回目：感覚器と神経系の仕組み、中枢神経と末梢神経</p> <p>1 3 回目：ホメオスタシスと体液およびホルモンのはたらき</p> <p>1 4 回目：自律神経のはたらきと生体防御の仕組み</p> <p>1 5 回目：動物の行動の特徴とヒトの進化</p>				
評価方法基準	筆記試験で評価 (1 0 0 %)				

■科目別授業計画表

科目名	化学	授業形態	講義
担当講師名	宇都宮 森和		
科目内容	物質の性質や構造、変化などについて学び、物質の基本的な本性、化学反応、有機化学など、医療に関わる事象に触れる。また、生物の体を形成する化学物質についての理解に努める。		
到達目標	化学の基礎的な知識を身につけ、人体をはじめとした化学物質についての理解を深めるとともに、医療に関わる学修に生かそうとする態度を育む。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 化学 (医歯薬)		
授業内容	<p>1 回目：物質の分類と構造、元素・原子と分子</p> <hr/> <p>2 回目：原子の電子配置、元素の周期律</p> <hr/> <p>3 回目：物質量と化学結合</p> <hr/> <p>4 回目：気体に関する法則、大気中の主な気体と生活への活用</p> <hr/> <p>5 回目：水溶液の濃度とその測定方法</p> <hr/> <p>6 回目：水溶液の性質とコロイド溶液</p> <hr/> <p>7 回目：酸・アルカリとPH、中和反応</p> <hr/> <p>8 回目：化学反応の仕組みと化学平衡</p> <hr/> <p>9 回目：酸化と還元、金属のイオン化傾向</p> <hr/> <p>10 回目：有機化合物と異性体</p> <hr/> <p>11 回目：有機化合物の反応とおもな化合物の性質</p> <hr/> <p>12 回目：水の性質とヒトを形づくる元素</p> <hr/> <p>13 回目：糖質 (単糖類、二糖類、多糖類)</p> <hr/> <p>14 回目：アミノ酸とタンパク質、脂質</p> <hr/> <p>15 回目：核酸と遺伝子の構造</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)		

■科目別授業計画表

科目名	英語 I	授業形態	演習
担当講師名	嶋本 ローラ		
科目内容	高校までに習った英語を実際に理解し、会話の土台が出来るようになること。		
到達目標	クリニックなどおとずれる外国人と日常会話ができるようになること。		
担当教員実務経験	大手企業の英文チェックや翻訳を担当していた経験を活かし、ネイティブスピーカー派遣会社設立。ネイティブスピーカーならではの会話を中心とした授業構成で、音楽を聴いたり英語でゲームなどを行い英語に慣れ親しむことを中心に教育する。		
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 1 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	1 単位		
使用教材	Smart Choice Student Book 1A(Oxford)		
参考図書	辞書 (なんでも O. K.)		
使用機器	CDプレイヤー		
授業内容	<p>1 回目：自己紹介 テキストUnit 1</p> <p>2 回目：相手の好きなことをたずねる テキストUnit 1</p> <p>3 回目：情報交換 テキストUnit 1 ペアワーク Unit 2</p> <p>4 回目：職種の英語 Unit 2 と 補助教材 (プリント)</p> <p>5 回目：英語の絵本 と プリント</p> <p>6 回目：好きなことや食事の話 Unit 3</p> <p>7 回目：スポーツ、歩度、習慣 Unit 4</p> <p>8 回目：英語でゲーム</p> <p>9 回目：いろんな動詞 Unit 5</p> <p>10 回目：リーディング Unit 5 と 補助教材 (プリント)</p> <p>11 回目：音楽でリスニングクイズ (プリント)</p> <p>12 回目：過去の出来事 Unit 6</p> <p>13 回目：一日日記 Unit 6 (テキスト P. 111)</p> <p>14 回目：復習と口頭テスト</p> <p>15 回目：復習と口頭テスト</p>		
評価方法基準	筆記試験 (60%)、口頭テスト (40%) で評価		

■科目別授業計画表

科目名	歯科衛生士概論	授業形態	講義
担当講師名	前田 順子		
科目内容	歯科衛生業務を有効に展開するために必要な態度・姿勢と専門知識や全体像を学ぶ。また、倫理的に判断して行動するのは何のためか、専門技術とは何か、患者・スタッフの安全確保はどうするのかを考え、歯科衛生士の現状を理解する。		
到達目標	医療専門職としての意義、歯科衛生士の考え方や行動について理解し、専門的知識・技術ならびに態度を身につけていくことを目指す。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、歯科衛生士の業務、歴史、法律、倫理、組織や役割について講義する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論（医歯薬）		
参考図書	歯科衛生士になるためのオリエンテーション		
授業内容	<p>1回目：歯科衛生士ガイダンス（歯科衛生士になるためのオリエンテーション）</p> <p>2回目：歯科衛生学について</p> <p>3回目：歯科衛生士の歴史</p> <p>4回目：歯科衛生活動の倫理</p> <p>5回目：歯科衛生過程とは</p> <p>6回目：歯科衛生士法と歯科衛生業務</p> <p>7回目：歯科衛生士の役割</p> <p>8回目：安全管理</p> <p>9回目：歯科衛生士と医療倫理</p> <p>10回目：歯科衛生士と医療倫理2</p> <p>11回目：歯科衛生士の活動と組織1 歯科衛生士の動向</p> <p>12回目：歯科衛生士の活動と組織2 保健・医療・福祉にかかわる歯科衛生士</p> <p>13回目：歯科衛生士の活動と組織3 歯科衛生活動の場</p> <p>14回目：歯科衛生士と組織</p> <p>15回目：総まとめ</p>		
評価方法基準	小テスト（10%）・筆記試験（90%）で評価		

■科目別授業計画表

科目名	解剖学	授業形態	講義
担当講師名	盛口 敬一		
科目内容	私たちのからだは骨や筋肉、内臓、血管、神経など、たくさんの器官からなり立っている。それらの関係やしくみを理解し、からだのすばらしさを学ぶ。		
到達目標	人体の基礎的な構造と機能の理解ができる。		
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 2 回で 8 週実施 総授業回数 16]		
単位数	2 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬)		
参考図書	入門人体解剖学 (南江堂)、絵でみる人体大地図 (同朋舎出版)		
授業内容	1 回目：総論：解剖学で何を学ぶか？ 骨格系1-骨の種類、連結、作られ方 ----- 2 回目：骨格系 2 -頭の骨、脳頭蓋と顔面頭蓋、ヒトの頭蓋の特徴 ----- 3 回目：骨格系 3 -上顎・下顎の骨、骨口蓋、顎の関節、頭蓋の成長 ----- 4 回目：骨格系 4 -頭蓋の観察とスケッチ、全身の骨格 ----- 5 回目：筋系 1 -筋肉の種類、骨格筋の起始・停止と働き、顔面筋 ----- 6 回目：筋系 2 -ものをかむ時に働く筋 (咀嚼筋と舌骨筋)、体幹の筋 ----- 7 回目：筋系 3 -体肢の筋、 脈管系 1 -血管と心臓、大動脈と大静脈 ----- 8 回目：脈管系 2 -頭頸の動脈と静脈、特に外頸動脈の枝、胎児の循環 ----- 9 回目：脈管系 3 -リンパ系、頭頸のリンパ節、リンパ性器官、消化器系 1 -口腔 ----- 1 0 回目：消化器系 2 -のど(咽頭)、舌、唾液腺、肝臓 ----- 1 1 回目：消化器系 3 -胃腸 呼吸器系 -鼻腔と喉頭、肺 ----- 1 2 回目：泌尿・生殖器系、内分泌系、神経系 1 -神経とは何か ----- 1 3 回目：神経系 2 -脳と脊髄 ----- 1 4 回目：神経系 3 -三叉神経、顔面神経などの脳神経 ----- 1 5 回目：神経系 4 -脊髄神経と自律神経 ----- 1 6 回目：感覚器、まとめ		
評価方法基準	レポート (配点20点) と筆記試験 (同80点) の合計 6 0 点以上を合格とする。		

■科目別授業計画表

科目名	歯牙解剖学	授業形態		講義	
担当講師名	丸山 健				
科目内容	講義の目的は日常何気無く観ている口腔を中心とする顔を構成する部、歯、口蓋舌、粘膜等の解剖学的名称を覚えて、歯科衛生士としての基礎的知識を身に付けて頂く。				
到達目標	歯の形態と役割を理解し、歯の鑑別方法を理解する。				
担当教員実務経験	歯科医師（現役）の経験を活かし、口腔を中心とする解剖学的名称や基礎知識を講義する。				
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 15]				
単位数	<u>2</u> 単位				
使用教材	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬)				
参考図書	歯牙解剖歯型彫刻 (クインテッセンス出版) 歯の進化からさぐるヒトの歯の形態学 (医歯薬出版) 歯の解剖・生理・咬合学 (西村書店)				
授業内容	1回目：歯の特徴、構造 ----- 2回目：歯の種類と名称、歯の記号、歯式、歯の用語 ----- 3回目：歯の形態的特徴 ----- 4回目： "				

	5回目：永久歯の形態的特徴				

	6回目：切歯の形態的特徴				

	7回目：犬歯の形態的特徴				

	8回目：小白歯の形態的特徴				

	9回目：大臼歯の形態的特徴				

	10回目：乳歯の形態的特徴 (永久歯と比較して)				

	11回目：各乳歯の形態的特徴				

	12回目：歯の異常 (数、形態)				

	13回目：上下顎、隣接歯および歯肉との関係				} 歯列と咬合
	14回目：歯の配列と咬合 (歯列弓、植立状態)				

	15回目：解説・まとめ				
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)				

■科目別授業計画表

科目名	組織発生学	授業形態	講義
担当講師名	畑中 伸彦		
科目内容	組織学は顕微鏡を用いて人体の微細構造を理解する学問です。 発生学では受精した1個の卵細胞が分割・着床し、個体が形成され出生するまでの過程を学びます。		
到達目標	歯と歯周組織の発生、構造および機能について理解することを目標とする。		
授業時間	総時間数 <u>15</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 8 週実施 総授業回数 8]		
単位数	<u>1</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬)		
参考図書	目でみる基本人体発生学 (廣川書店)、入門組織学 (南江堂)		
授業内容	<p>1回目：1章 細胞と組織 I.細胞 II.組織</p> <hr/> <p>2回目：1章 細胞と組織 II組織</p> <hr/> <p>3回目：2章 発生 I.精子と卵子の発生 II.染色体 III.受精と着床</p> <hr/> <p>4回目：2章 発生 IV.胚葉の形成 V.胎児の成長と発育 VI.骨の発生</p> <hr/> <p>5回目：2章 発生 VII.顔面と口腔の発生</p> <hr/> <p>6回目：3章 口腔組織 I.エナメル質 II.象牙質</p> <hr/> <p>7回目：3章 口腔組織 III.歯髄 IV.セメント質 V.歯根膜</p> <hr/> <p>8回目：3章 口腔組織 VI.歯槽(骨) VII.歯肉 VIII.萌出</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)		

■科目別授業計画表

科目名	基礎実習（歯牙解剖実習）	授業形態	実習
担当講師名	山本 司将、岸本 良、高木 亮輔		
科目内容	歯の形について理解を深めるため、模型の歯を用いて歯の大きさを測定し、スケッチをする。また石膏棒を削って歯の形を作る。		
到達目標	歯の形態的特徴を三次元的に理解し、歯の鑑別ができるようになる。		
授業時間	総時間数 <u>16</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 4 週実施 総授業回数 8]		
単位数	<u>1</u> 単位（基礎実習 3 科目のすべてで）		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬）		
授業内容	<p>1回目：オリエンテーション 上顎中切歯の計測、スケッチ、カービング</p> <p>2回目： //</p> <p>3回目：上顎第一大臼歯の計測、スケッチ、カービング</p> <p>4回目： //</p> <p>5回目：上顎犬歯、第一小臼歯のスケッチ 下顎第一小臼歯、第一大臼歯のスケッチ</p> <p>6回目： //</p> <p>7回目：提出物のチェック、実習試験</p> <p>8回目： //</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p>		
評価方法基準	実習課題（25%）、スケッチ（25%）、作品（25%）および実習試験（25%）により評価		

■科目別授業計画表

科目名	生理学	授業形態	講義
担当講師名	高崎 昭彦、鍵小野 美和		
科目内容	一般生理学として、細胞レベルの知識を修得し、各機能に関する知識を修得する 口腔生理学として、咬合・咀嚼などの機能に関する知識、歯と口腔の感覚に関する知識などを修得する。		
到達目標	人体の機能について理解することができる。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬)		
参考図書	生理学アトラス (文光堂)、基礎歯科生理学 (医歯薬出版)		
授業内容	<p>1 回目：生理学の基礎</p> <p>-----</p> <p>2 回目：体液・血液</p> <p>-----</p> <p>3 回目：骨格系・筋肉系</p> <p>-----</p> <p>4 回目：神経系</p> <p>-----</p> <p>5 回目：体温調節機能</p> <p>-----</p> <p>6 回目：感覚機能</p> <p>-----</p> <p>7 回目：循環機能</p> <p>-----</p> <p>8 回目：呼吸機能</p> <p>-----</p> <p>9 回目：消化機能</p> <p>-----</p> <p>1 0 回目：腎機能</p> <p>-----</p> <p>1 1 回目：生殖機能</p> <p>-----</p> <p>1 2 回目：内分泌機能</p> <p>-----</p> <p>1 3 回目：口腔生理学 (味覚・嗅覚)</p> <p>-----</p> <p>1 4 回目：口腔生理学 (唾液)</p> <p>-----</p> <p>1 5 回目：解説・まとめ</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)		

■科目別授業計画表

科目名	基礎実習(生理実習)	授業形態	実習
担当講師名	高崎 昭彦		
科目内容	血液細胞を観察し、各細胞の働きを再認識し、血液型など輸血に関する知識も習得する。循環器系実習ではバイタルサインについて、呼吸器系実習では肺活量測定などを行い、また体組成計、自律神経測定装置を用い、メタボリックシンドローム、自律神経系疾患についても実習を通じて学ぶ。		
到達目標	実習を通じて人体の機能についての理解を深める。		
授業時間	総時間数 <u>16</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 4 週実施 総授業回数 8]		
単位数	<u>1</u> 単位 (基礎実習 3 科目のすべてで)		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬)		
授業内容	1回目：血液細胞の観察 1. 静脈確保、採血方法について (講義) ----- 2回目： 2. 血液塗抹標本作成 3. 標本染色 4. 標本観察 ----- 3回目：血液型 (A B O式、R h式) 1. 血液型について (講義) ----- 4回目： 2. A B O式血液型検査 3. R h式血液型検査 4. 不規則抗体について (講義) ----- 5回目：循環器系実習 (血圧測定、指尖容積脈波) 1. バイタルサインについて (講義) ----- 6回目： 2. 血圧測定 3. ポータブル心電図 (ベッドサイドモニター) 測定、他 ----- 7回目：呼吸器系実習 (スパイロメータを使った呼吸機能検査) ・その他 ----- 8回目： 1. 呼吸機能について (講義) 2. 肺活量測定 3. フローボリューム測定 ----- 回目： 4. 体組成について 5. 自律神経バランスについて ----- 回目： ----- 回目： ----- 回目： ----- 回目： ----- 回目： ----- 回目：		
評価方法基準	レポートで評価 (100%)		

■科目別授業計画表

科目名	微生物学	授業形態	講義
担当講師名	堀江 真弓		
科目内容	微生物学は歯科医療の基礎的な学問である。口腔感染症である齲蝕や歯周病は、微生物が原因である。また、医療の現場における感染予防のためにも、微生物について知ることが必要である。 これらのことを踏まえ、歯科医療に必要な微生物学の基礎を学ぶ。		
到達目標	原因となる微生物についてと宿主の防御能について理解する。		
実務経験担当教員	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病原性微生物の性質や疾病についてや医療現場による感染予防について講義する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復の過程の促進2 微生物学 (医歯薬)		
参考図書	系統看護学講座 微生物学 (医学書院)		
授業内容	<p>1回目：疾病と微生物</p> <p>2回目：微生物とその病原性について</p> <p>3回目：病原微生物(細菌)</p> <p>4回目： " (細菌など)</p> <p>5回目： " (ウイルスなど)</p> <p>6回目： " (ウイルス・真菌)</p> <p>7回目：宿主防御機能</p> <p>8回目：免疫</p> <p>9回目：免疫とアレルギー</p> <p>10回目：口腔微生物学</p> <p>11回目：口腔感染症 (齲蝕と歯内感染症)</p> <p>12回目： " (歯周病とその他の口腔感染症)</p> <p>13回目：化学療法</p> <p>14回目：滅菌と消毒</p> <p>15回目：細菌の培養と観察</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)		

■科目別授業計画表

科目名	基礎実習（微生物実習）	授業形態	実習
担当講師名	堀江 真弓		
科目内容	実際に細菌を培養したり滅菌したりすることによって、細菌レベルでの清潔・不潔の区別の考え方を身につけるために、グラム染色等を通して細菌の取り扱い方等を学び、口腔内細菌や枯草菌（芽胞）の観察等を行う。また、手指消毒の検証も行う。		
到達目標	細菌の取り扱い方法の習得、滅菌・消毒の概念の理解		
授業時間	総時間数 <u>16</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 4 週実施 総授業回数 8]		
単位数	<u>1</u> 単位（基礎実習 3 科目のすべてで）		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復の過程の促進 2 微生物学（医歯薬）		
授業内容	<p>1 回目：①実習心得の説明 ②顕微鏡操作の習得</p> <p>2 回目：③細菌の観察</p> <p>3 回目：①細菌のグラム染色</p> <p>4 回目：②手指の消毒（培養） ③枯草菌の培養</p> <p>5 回目：①口腔内細菌の培養</p> <p>6 回目：②手指の消毒（判定と観察） ③枯草菌（芽胞）の観察</p> <p>7 回目：①口腔内細菌のコロニー観察とグラム染色</p> <p>8 回目：②歯垢のグラム染色 ③歯垢の墨汁染色</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p>		
評価方法基準	レポートで評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	病理学	授業形態		講義	
担当講師名	前田 初彦、加藤 裕美、杉田 好彦				
科目内容	病理学は病気の本態を明らかにする学問である。したがって、病理学は単に病気の原因や病変の成り立ちを教えてくれるだけでなく、病気の診断やその治療あるいは病気の予防などに関するいろいろな知識を与えてくれる学科である。				
到達目標	病気（疾患）について、原因・発生機序・経過・転帰という観点からとらえて理解する。				
実務経験担当教員	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病気や疾患の基本について学び、その診断方法や治療法あるいは予防法を講義する。				
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 15]				
単位数	<u>2</u> 単位				
使用教材	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学（医歯薬）				
参考図書	病理学概論（永末書店）、新口腔病理学（医歯薬出版）				
授業内容	<p>1 回目：病理学序論と病因論（内因と外因）、先天性疾患と奇形（遺伝、遺伝性疾患、奇形）</p> <p>2 回目：循環障害（循環血液量の異常、閉塞性の循環障害、側副循環）</p> <p>3 回目：代謝障害と退行性病変（細胞障害、変性と物質代謝障害、萎縮、細胞死）</p> <p>4 回目：増殖と修復（肥大と増生、化生、再生と修復、創傷治癒、異物処理）</p> <p>5 回目：炎症（炎症の原因・経過、他）と免疫応答異常（免疫応答、アレルギー、他）</p> <p>6 回目：腫瘍（定義、発生機序と原因、種類と性質、診断）</p> <p>7 回目：歯の発育異常（大きさ・歯数・形・構造・萌出時期・位置・咬合の異常）</p> <p>8 回目：歯の損傷と着色・付着物（物理的損傷、化学的損傷、着床、プラークと歯石）</p> <p>9 回目：う蝕（疫学と病因、分類、他）、象牙質・歯髄複合体の病理（歯髄炎、他）</p> <p>10 回目：歯周組織の病態（根尖部歯周組織の病変、辺縁部歯周組織の病変、他）</p> <p>11 回目：口腔粘膜の病変（特徴、メラニン色素沈着症、ウイルス感染、他）</p> <p>12 回目：口腔領域の嚢胞と腫瘍、口腔癌（前癌病変、上皮性異形成と上皮内癌、他）</p> <p>13 回目：顎骨の病変（顎骨骨髓炎、腫瘍性病変、顎関節の病変）、唾液腺の病変</p> <p>14 回目：口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化</p> <p>15 回目：試験の解説</p>				
評価方法基準	筆記試験にて評価（100%）				

■科目別授業計画表

科目名	衛生学・公衆衛生学	授業形態	講義
担当講師名	新井 歌織		
科目内容	臨床医学が個人の病気を研究対象とするのに対し、衛生学・公衆衛生学は集団の健康を研究対象とする。たくさんの人の健康を守ること。 1年生には少々なじみの薄い分野だが、楽しく勉強しましょう。		
到達目標	健康・福祉・環境を理解し、説明できるようになる。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1,2</u> 回で 8週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 保健生態学 (医歯薬出版) 公衆衛生がみえる 2022-2023 (メディックメディア)		
参考図書	シンプル衛生公衆衛生学 (南江堂)、国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)		
授業内容	<p>1回目：衛生学、公衆衛生学序論</p> <p>-----</p> <p>2回目：母子保健</p> <p>-----</p> <p>3回目：学校保健</p> <p>-----</p> <p>4回目：成人保健</p> <p>-----</p> <p>5回目：産業保健</p> <p>-----</p> <p>6回目：老人保健（1）</p> <p>-----</p> <p>7回目：老人保健（2）</p> <p>-----</p> <p>8回目：精神保健、災害保健、国際保健</p> <p>-----</p> <p>9回目：疫学</p> <p>-----</p> <p>10回目：人口</p> <p>-----</p> <p>11回目：健康と環境（1）（空気・水・放射線）</p> <p>-----</p> <p>12回目：健康と環境（2）（地球環境）</p> <p>-----</p> <p>13回目：感染症</p> <p>-----</p> <p>14回目：食品と健康</p> <p>-----</p> <p>15回目：衛生学・公衆衛生学まとめ</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	栄養指導	授業形態	講義
担当講師名	小島 千佳		
科目内容	栄養指導は、各栄養素の理解と体内での営みを知り、食生活を通じて、それぞれの食品から作られた食事が健康の維持・増進や疾病とどう関わっているかを知り伝えることを目的とする学問である。		
到達目標	栄養素の種類や働きの他、消化・吸収、食事摂取基準など、各栄養素の栄養学的意義について理解し、説明できるようになる。健康で質の高い生活を送るため、正しい食生活を身につけ、伝えることができるようになる。		
実務経験担当教員	管理栄養士の資格を有し、病院・歯科医では栄養指導・管理栄養士業を担当。講演や健康と食について健康教室を開く。いままでの経験を活かし、栄養指導の重要性、食事の重要性を講義する。		
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 2 回で 8 週実施 総授業回数15]		
単位数	2 単位		
使用教材	プリント、歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 栄養と代謝 (医歯薬)		
授業内容	<p>1 回目：栄養の基礎知識</p> <p>2 回目：食事摂取基準</p> <p>3 回目：糖質の栄養的意味</p> <p>4 回目：脂質の栄養的意味</p> <p>5 回目：タンパク質の栄養的意味</p> <p>6 回目：ミネラルの栄養的意味</p> <p>7 回目：ビタミンの栄養的意味</p> <p>8 回目：水、食物繊維の栄養的意味</p> <p>9 回目：栄養素の消化・吸収</p> <p>10 回目：食べ物と健康</p> <p>11 回目：食生活と健康 I</p> <p>12 回目：食生活と健康 II</p> <p>13 回目：ライフステージ別の栄養 I</p> <p>14 回目：ライフステージ別の栄養 II</p> <p>15 回目：まとめ</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)		

■科目別授業計画表

科目名	生化学	授業形態	講義
担当講師名	安達 啓子		
科目内容	生命現象を分子レベルまで分解し、化学反応としてとらえる学問が生化学である。生体構成成分や栄養素を化学物質としてとらえ、それらの体内での分解過程、それに伴うエネルギー生成過程、必要な物質を合成する過程を化学反応でとらえ、その本質を理解する。		
到達目標	生体の主な成分と代謝過程が説明できるようになる。 歯・歯周組織・プラークなどの構成・機能・性質を説明できるようになる。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 (医歯薬)		
参考図書	口腔生化学 (医歯薬)、 口腔生化学 (歯科国試 [®] -フェクトマスター) (医歯薬)		
授業内容	<p>1回目： 歯と歯周組織の生化学1</p> <p>2回目： 歯と歯周組織の生化学2</p> <p>3回目： 硬組織の生化学1</p> <p>4回目： 硬組織の生化学2</p> <p>5回目： タンパク質とアミノ酸1</p> <p>6回目： タンパク質とアミノ酸2</p> <p>7回目： タンパク質の合成1</p> <p>8回目： タンパク質の合成2</p> <p>9回目： 糖質1</p> <p>10回目： 糖質2</p> <p>11回目： 糖質と脂質の代謝1</p> <p>12回目： 糖質と脂質の代謝2</p> <p>13回目： 唾液の生化学1</p> <p>14回目： 唾液の生化学2</p> <p>15回目： まとめ</p>		
評価方法基準	授業内に行う小テストの点数を筆記試験の点数に加算する		

■科目別授業計画表

科目名	保存修復学	授業形態	講義
担当講師名	村田 公成、荒川 精一		
科目内容	むし歯、打撲等により部分的に生じた硬組織（エナメル質、象牙質）の欠損部の進行を防止し、その欠損部を元の形態に修復するための原則と方法を学ぶ学問である。		
到達目標	歯の硬組織に生じるさまざまな疾患を理解し、その治療法や前処置について説明できる。治療および治療後のメンテナンスにおける歯科衛生士の役割について理解する。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、むし歯等による硬組織の欠損部の進行を阻止し、修復方法を講義する。		
授業時間	総時間数 16 時間 [90分授業を、週 2 回で 4 週実施 総授業回数 8]		
単位数	1 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学（医歯薬）		
参考図書	カラーアトラス保存修復の臨床（医歯薬） 最新コンポジットレジン修復（デンタルダイヤモンド社）		
授業内容	<p>1回目：歯の保存療法の種類 I. 歯の保存療法と歯科保存学 II. 対象となる疾患</p> <p>2回目：口腔診査 I. 基礎知識と前準備 II. 医療面接 III. 現症の診査 他</p> <p>3回目：保存修復学の概要 I. 硬組織疾患の種類と病態 II. 窩洞と保存修復治療 他</p> <p>4回目：保存修復治療の概要 I. 診療のステップ II. 治療の準備 他</p> <p>5回目：直接法修復（1） I. コンポジットレジン修復 他 II. 直接法修復の診療補助 他</p> <p>6回目：直接法修復（2） I. セメント修復とは II. セメントの種類と用途 他</p> <p>7回目：間接法修復（1） I. セラミックインレー修復 II. ベニヤ修復 他</p> <p>8回目：間接法修復（2） I. インレーおよびアンレー修復 II. 間接法修復の診療補助 他</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯内療法学	授業形態	講義
担当講師名	天野 一晴、渡邊 泰三		
科目内容	講義ではう蝕（むし歯）などによって引き起こされる歯髄疾患や根尖性歯周疾患について学び、それらの予防や治療法について理解し、臨床の場において実践できるように教育していく。		
到達目標	歯髄疾患と根尖性歯周組織疾患の概要および治療法の概要を説明できる。歯内療法における歯科衛生士の役割を理解する。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯髄疾患や根尖歯周病治療についてや臨床実習において治療の土台となる歯内療法を講義する。		
授業時間	総時間数 <u>16</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 4 週実施 総授業回数 8]		
単位数	<u>1</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学（医歯薬）		
参考図書	アトラス歯内療法学（クインテッセンス） カラーアトラス歯内療法の臨床（医歯薬）		
授業内容	<p>1回目：歯内療法の概要 1. 歯内療法学とは 2. 歯内疾患(主な疾患)の概要と原因 他</p> <p>2回目：歯髄保存療法 1. 歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬 他</p> <p>3回目：歯髄の除去療法 1. 歯髄切断法 2. 抜髄法</p> <p>4回目：根管治療、根管充填 1. 根管治療の基本概念 2. 根管治療の術式 他</p> <p>5回目：外科的歯内療法</p> <p>6回目：歯の外傷</p> <p>7回目：歯内療法における安全対策</p> <p>8回目：歯内療法における歯科衛生士の役割 1. 検査・診断時の業務 他</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p> <p>回目：</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯周療法学	授業形態	講義
担当講師名	神谷 英道、高須 英成		
科目内容	歯周病とは、歯を取り巻き、歯を支えている歯周組織の病気です。歯周療法は、この歯周病の成り立ちとそれに対する予防・治療法を学ぶ学問です。		
到達目標	歯周病の病因と病態について説明できる。歯周病予防・治療における歯科衛生士の役割を理解する。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、臨床経験を基に歯周病の予防と治療の基本的な知識及び技術について講義する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯周病学（医歯薬）		
参考図書	イニシャルプレパレーション（医歯薬） 歯肉を読む（クインテッセンス）		
授業内容	<p>1 回目：Ⅰ編 歯周治療の基礎知識 1 章 歯周治療とは 他</p> <hr/> <p>2 回目： 2 章 正常な歯周組織の構造と機能 Ⅰ. 歯周組織の構造 他</p> <hr/> <p>3 回目： 3 章 歯周病の分類と原因 Ⅰ. 歯周病の分類</p> <hr/> <p>4 回目： Ⅱ. 歯周病の原因 Ⅲ. 歯周医学 他</p> <hr/> <p>5 回目：Ⅱ編 歯周治療の実際 1 章 歯周治療の進め方</p> <hr/> <p>6 回目： 2 章 歯周病の診査 Ⅰ. 主訴を中心とした一般診査 他</p> <hr/> <p>7 回目： Ⅲ. 咬合の診査 Ⅳ. 画像診断 Ⅴ. その他の診査</p> <hr/> <p>8 回目： 3 章 歯周基本治療 他</p> <hr/> <p>9 回目： 4 章 歯周外科治療 Ⅰ. 歯周外科治療の目的と分類 他</p> <hr/> <p>10 回目： Ⅲ. 歯周外科治療に用いる器材</p> <hr/> <p>11 回目： Ⅳ. 種々の歯周外科治療 他</p> <hr/> <p>12 回目： 5 章 歯周治療としての口腔機能回復 他</p> <hr/> <p>13 回目： 6 章 メインテナンス 他</p> <hr/> <p>14 回目：Ⅲ編 歯周治療における歯科衛生士の業務 他</p> <hr/> <p>15 回目：解説・まとめ</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯科補綴学	授業形態	講義
担当講師名	有馬 達也、宮地 秀憲、山本 司将、小松 尚孝		
科目内容	歯の一部欠損に対し、冠をかぶせたり、歯そのものの欠損に対し、人工物によってそれを補い、「食べること」、「発音すること」、「歯の審美性」を回復することを目的とする学問である。		
到達目標	歯科補綴治療の概要を説明できる。歯科補綴治療における歯科衛生士の役割を理解する。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯科衛生士に関連している歯科補綴学を臨床に即した面から、補綴治療の基本的な知識について講義する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学（医歯薬）		
参考図書	床義歯学（クインテッセンス）		
授業内容	<p>1回目：補綴治療とは ・歯科補綴治療の意義と目的、補綴治療の種類と適応 他</p> <p>2回目：補綴治療の基礎知識 ・歯列の形態と位置的關係、顎口腔系の機能</p> <p>3回目：補綴治療の基礎知識 ・咬合とその関連事項</p> <p>4回目：補綴治療の基本知識 ・歯の欠損・喪失に伴う変化・障害、顎関節とその異常</p> <p>5回目：クラウン ・クラウンの分類、臨床ステップの概説</p> <p>6回目：クラウン ・患者指導</p> <p>7回目：ブリッジ ・ブリッジの構成と材料、臨床ステップの概要</p> <p>8回目：ブリッジ ・印象・咬合採取・技工依頼、完成ブリッジの試適・調整・セメント合着</p> <p>9回目：部分床義歯 ・臨床ステップの概説、部分床義歯の分類、部分床義歯の構成 他</p> <p>10回目：部分床義歯 ・部分床義歯の技工、患者指導</p> <p>11回目：全部床義歯 ・全部床義歯の分類、全部床義歯の構成要素、臨床ステップの概説</p> <p>12回目：全部床義歯 ・全部床義歯の技工</p> <p>13回目：補綴治療に用いられる器材とその管理 ・切削・研削・研磨用器材 他</p> <p>14回目：在宅訪問指導について</p> <p>15回目：補綴診療時の歯科衛生士の役割・試験解説</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	矯正歯科学	授業形態	講義
担当講師名	山口 英治、天野 志乃布、志村 法子、土川 太一		
科目内容	咀嚼器官の成長と発育について学び、不正咬合が原因での咀嚼系、歯周系及び発音の変化について、その予防、改善及び治療を学問的基盤にもとづいて考察します。		
到達目標	歯科矯正治療の概要を説明できる。歯科矯正治療における歯科衛生士の役割を理解する。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、矯正歯科治療の概要、正常咬合と不正咬合など、臨床で歯科衛生士業務に必要な技術を講義する。		
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 2 回で 8 週実施 総授業回数 16]		
単位数	2 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学（医歯薬）		
参考図書	カラーアトラス矯正歯科の臨床（医歯薬出版）、歯科矯正学（医歯薬出版）		
授業内容	<p>1回目：矯正歯科治療の概要 歯科矯正学の目的</p> <p>2回目：成長・発育 頭蓋骨の成長・発育 下顎骨の成長・発育</p> <p>3回目：正常咬合と不正咬合 咬合 下顎位と咬合位</p> <p>4回目：矯正歯科診断 必要な検査、症例分析</p> <p>5回目：矯正歯科治療と“力” 矯正力</p> <p>6回目：顎整形力 保定</p> <p>7回目：矯正装置</p> <p>8回目：矯正歯科治療の実際</p> <p>9回目：歯の埋伏と歯数異常</p> <p>10回目：矯正歯科治療時のトラブルへの対応</p> <p>11回目：健康保険が適応される矯正歯科治療</p> <p>12回目：口腔筋機能療法</p> <p>13回目：歯科衛生士の役割 検査の補助</p> <p>14回目：歯科衛生士の役割 矯正歯科用材料と使用方法</p> <p>15、16回目：実習 口腔内写真 結紮 帯冠装置 ダイレクトボンディング法</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯科予防処置 I	授業形態	講義・実習
担当講師名	小池 美佳		
科目内容	歯科予防処置とは歯や口腔の疾患（う蝕や歯周病）を予防して健康な状態を維持増進するために行われる専門的な処置をいう。そのための知識、技術および態度を習得する。		
到達目標	歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な基礎知識・技術・態度を修得する。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、予防処置の基礎から専門的な知識・技術までの指導を行う。		
授業時間	総時間数 135 時間 [90分授業を、週 2~4 回で 30 週実施 総授業回数 68]		
単位数	3 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬）		
参考図書	歯科予防処置（新歯科衛生士教本） 口腔保健管理（最新歯科衛生士教本） 歯科衛生士のための感染予防スタンダード（医歯薬出版） 歯周疾患歯周治療（最新歯科衛生士教本）		
授業内容	<p>1 回目： I 編1章 歯科予防処置論の概要 ① 歯科予防処置の定義 ② 歯科予防処置の考え方</p> <p>2 回目： ③ 歯科予防処置の法的な位置づけ</p> <p>3 回目： II 編1章 口腔の基礎知識 ① 正常な口腔 ② 歯周組織 2章 齲蝕と歯周病の基礎</p> <p>4 回目： 知識 ① 口腔内の付着物・沈着物 ② プラーク ③ 歯石 ④ 齲蝕 ⑤ 歯周病</p> <p>5 回目： III 編2章 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理</p> <p>6 回目： 検査に用いられる器材（歯の付着物・沈着物 歯周ポケット 歯の動揺度）</p> <p>7 回目： 3章 歯科衛生介入のための歯科予防処置 ① スケーリング</p> <p>8 回目： 手用スケーラー 1. 構成 2. 把持法 3. 使用原則 4. 基本設定 5. 種類</p> <p>9 回目： シックルタイプスケーラーの操作</p> <p>10 回目： ① 操作方法 ② 訓練棒上での固定および運動の練習</p> <p>11 回目： シックルタイプスケーラー 基本操作実習（机上・顎模型） 1</p> <p>12 回目： //</p> <p>13 回目： シックルタイプスケーラー 基本操作実習（机上・顎模型） 2</p> <p>14 回目： //</p> <p>15 回目： シックルタイプスケーラー 基本操作実技検定（机上・顎模型）</p>		
評価方法基準	筆記試験（前期・後期・小テスト）（60%）、実技検定（30%）、授業態度（10%）で評価		

■科目別授業計画表

授 業 内 容		
16回目：	シックルタイプスケーラー 基本操作実技検定（机上・顎模型）	
17回目：	エクスプローラー（探針）の使い方	
18回目：	ミラーテクニック 1. 種類と特徴 2. 使用方法	
19回目：	マネキンの基本設定	
20回目：	① マネキン実習の意味 ② マネキンの操作 ③ 部位別操作法表作成	
21回目：	シックルタイプスケーラー 基礎実習（マネキン）	1
22回目：	〃	
23回目：	シックルタイプスケーラー 基礎実習（マネキン）	2
24回目：	〃	
25回目：	シックルタイプスケーラー 基礎実習（マネキン）	3
26回目：	〃	
27回目：	シックルタイプスケーラー 基礎実習（マネキン）	復習
28回目：	〃	
29回目：	シックルタイプスケーラー 実技検定（マネキン・前歯部）	
30回目：	〃	
31回目：	シックルタイプスケーラー 基礎実習（マネキン）	復習
32回目：	〃	
33回目：	シックルタイプスケーラー 実技検定（マネキン・臼歯部）	
34回目：	〃	
35回目：	感染防止・偶発事故の防止と対策	
36回目：	〃	
37回目：	V編1章 相互実習	
38回目：	オリエンテーション	
39回目：	⑤ スケーリング実習	
40回目：	シックルタイプスケーラー 相互実習	1

■科目別授業計画表

授 業 内 容		
4 1 回目：	シックルタイプスケーラー 相互実習	2
4 2 回目：	〃	
4 3 回目：	シックルタイプスケーラー 相互実習	3
4 4 回目：	〃	
4 5 回目：	シックルタイプスケーラー 相互実習	4
4 6 回目：	〃	
4 7 回目：	② 歯面研磨・歯面清掃 (P T C)	
4 8 回目：	1. 歯面研磨 (ポリッシング) 基礎実習 (マネキン)	
4 9 回目：	歯面研磨 相互実習	1
5 0 回目：	〃	
5 1 回目：	歯面研磨 相互実習	2
5 2 回目：		
5 3 回目：	2. 歯面清掃 1) P M T C 2) 歯面清掃器	
5 4 回目：	歯面清掃 基礎実習 (マネキン)	
5 5 回目：	P M T C 相互実習	1
5 6 回目：	〃	
5 7 回目：	P M T C 相互実習	2
5 8 回目：	〃	
5 9 回目：	P M T C 相互実習	3
6 0 回目：	〃	
6 1 回目：	Ⅲ編2章 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理	
6 2 回目：	歯周プローブの使い方 基礎実習	
6 3 回目：	プロービング 相互実習 (4点法)	
6 4 回目：	〃	
6 5 回目：	プロービング 相互実習 (6点法)	1

授 業 内 容

66回目： //

67回目： プロービング 相互実習（6点法） 2

68回目： //

■科目別授業計画表

科目名	歯科保健指導 I	授業形態	講義・実習
担当講師名	前田 順子		
科目内容	自らの口腔内を観察することや、口腔清掃自習法を通し、口腔正常像や初期病変を理解するとともに、歯科保健指導に必要な知識を学ぶ。		
到達目標	歯科保健指導ができるよう助言や援助の方法を身につける。口腔衛生管理に必要な知識・技術を習得する。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、健康や歯科医療に対する関心を持って歯科保健指導が行えるよう、基礎的な知識・技術を指導する。		
授業時間	総時間数 45 時間 [90分授業を、週 1~2 回で 23 週実施 総授業回数 23]		
単位数	1 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬)		
参考図書	歯科衛生士試験対策ポイントチェック 5 口腔保健管理 (最新新歯科衛生士教本)		
授業内容	<p>1 回目： 歯科保健指導とは(1、2年合同ブラッシング指導実習)</p> <p>2 回目： //</p> <p>3 回目： I 編 1 章 歯科保健指導の概要</p> <p>4 回目： II 編 1 章 口腔の基礎知識 1. 口腔・口腔周囲の構造</p> <p>5 回目： II 編 1 章 口腔の基礎知識 4. 口腔の機能</p> <p>6 回目： 2 章 う蝕と歯周病の基礎知識 1. 口腔内の付着物・沈着物</p> <p>7 回目： 3 章 食生活指導のための基礎知識 6. 食品とう蝕誘発性</p> <p>8 回目： //</p> <p>9 回目： 3 章 食生活指導のための基礎知識 7. 歯周病と食生活 8. 酸蝕症と食生活</p> <p>10 回目： 9. 咀嚼と食品 10. 特別用途食品と保健機能食品</p> <p>11 回目： 4 章 保健行動支援のための基礎知識</p> <p>12 回目： //</p> <p>13 回目： III 編 2 章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集 8. 分析のためのデータ</p> <p>14 回目： 口腔衛生状態の指数 PCR OHI OHI-S</p> <p>15 回目： 口腔衛生状態の指数 PCR 相互実習</p>		
評価方法基準	筆記試験 (60%)、実技試験 (40%) で評価		

■科目別授業計画表

科目名	歯科材料	授業形態	講義
担当講師名	永井 伸幸、加藤 賢吾、山口 紅子、伊奈 慶典、市野 英昭		
科目内容	歯科診療に使用する歯科材料について組成と口腔内環境における物理的性質、機械的性質、化学的性質および生物学的性質ならびに、これらの性質に影響を及ぼす取り扱い方法について講義を行う。		
到達目標	歯科材料の種類、用途および基本的性質について理解する。また歯科材料の取り扱い法についても理解する。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、組成と口腔内環境における物質的性質や生物的性質ならびにこれらの性質に影響を及ぼす取り扱い方を講義する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬）		
参考図書	歯科理工学（クインテッセンス） 目で見える歯科理工学－歯科領域とバイオマテリアル－（医歯薬）		
授業内容	<p>1回目：Ⅰ編 歯科材料の基礎知識 1章 歯科材料と歯科衛生士</p> <hr/> <p>2回目： 2章 歯科材料の基礎知識</p> <hr/> <p>3回目：Ⅱ編 歯科材料の種類と特性 3章 模型用材料</p> <hr/> <p>4回目： //</p> <hr/> <p>5回目： 4章 合着材・接着材</p> <hr/> <p>6回目： //</p> <hr/> <p>7回目： 1章 歯科衛生にかかわる材料</p> <hr/> <p>8回目： 5章 成形修復剤</p> <hr/> <p>9回目： 6章 仮封材</p> <hr/> <p>10回目： 7章 暫間修復材と仮着用セメント</p> <hr/> <p>11回目： 2章 印象材</p> <hr/> <p>12回目： //</p> <hr/> <p>13回目： 8章 ワックス</p> <hr/> <p>14回目： 9章 金属</p> <hr/> <p>15回目： 10章 セラミックス まとめ</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯科診療補助 I	授業形態	講義・実習
担当講師名	川上 理永		
科目内容	歯科診療補助には、歯科衛生士が患者に対応する業務と、歯科医師の歯科診療の介添えをする業務があり、それに必要な基礎知識の習得と、臨床の場に十分対応し得る技能の習得をする。		
到達目標	歯科診療の流れと歯科衛生士が行う歯科診療補助の内容を理解し、正確な知識と手技を身につけ、患者と術者の安全・安楽に配慮した行動ができるようになる。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、患者に対する業務と歯科診療の介添えについてを指導する。		
授業時間	総時間数 136 時間 [90分授業を、週 2 回で 34 週実施 総授業回数 68]		
単位数	3 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬）		
参考図書	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料の知識と取扱い（医歯薬） 歯科衛生士のための感染予防スタンダード（医歯薬）		
授業内容	<p>1 回目： I 編 1 章 歯科診療補助の概念 1-診療の補助とは 2-診療の補助範囲の法的な変化</p> <p>2 回目： II 編 2 章 歯科診療における基礎知識 1-歯科診療室の基礎知識</p> <p>3 回目： 1 章 医療安全と感染予防 1-医療安全 2-感染予防 1. 歯科医療における感染症の概念</p> <p>4 回目： 2. 歯科医療における感染予防対策 3-医療廃棄物の取り扱い</p> <p>5 回目： 2 章 2-歯科診療所における患者の流れ 3-共同動作</p> <p>6 回目： 1. 共同動作の概念 4. フォーハンドデンティストリー 5. 器具の取り扱い</p> <p>7 回目： 4 章 歯科材料と歯科診療の流れ・おもな処置と歯科材料の取り扱い</p> <p>8 回目： 1-印象採得 1. 基礎知識 2. アルジネート印象材による概形印象採得（練和練習）</p> <p>9 回目： 2. アルジネート印象材による概形印象採得（顎模型）</p> <p>10 回目： //</p> <p>11 回目： 3. 寒天印象採得の補助 2 章 8-歯肉圧排</p> <p>12 回目： //</p> <p>13 回目： 4. 合成ゴム質印象の補助 5. その他の印象材の取り扱い</p> <p>14 回目： //</p> <p>15 回目： 2-模型の作成 1. 歯科用石膏の基礎知識 2. 歯科用石膏の練和</p>		
評価方法基準	筆記試験（前期・後期・小テスト）（70%）、実技検定（25%）、授業態度（5%）で評価		

■ 科目別授業計画表

授 業 内 容	
16回目：	3. 歯科用石膏の管理方法 (※練和実習・石膏柱作成実習)
17回目：	歯科用モデルトリマーの取扱い ※石膏柱トリマーがけ
18回目：	〃
19回目：	3-合着・接着の補助 1. 合着・接着材の基礎知識 2. 治療の手順 3. 練和法
20回目：	4. 余剰セメントの除去
21回目：	5-仮封・仮着の補助 1. 基礎知識 2. 仮封材の種類 3. セメント系仮封材の取り扱い
22回目：	4. 水硬性仮封材の取り扱い 5. 仮封用軟質レジンの取り扱い 6. テンポラリーストップピングの取り扱い 7. サンドラックバーニッシュの取り扱い
23回目：	2章 歯科診療における基礎知識 6-薬品(薬物)・歯科材料の管理
24回目：	衛生材料作製 (※綿球、カット綿、小折ガーゼ作製、ブローチ巻実習)
25回目：Ⅱ編	1章 医療安全と感染予防 3. 手指消毒 4. 手袋装着・脱着の手順
26回目：	5. 滅菌と消毒 (手術用ガウンの着け方)
27回目：	2章 歯科診療における基礎知識 3-共同動作
28回目：	2. 術者・補助者・患者のポジショニング 3. 診療時のライティング 患者誘導実習 器械清拭の手順
29回目：	6. バキュームテクニック 7. スリーウェイシリンジテクニック 基礎実習
30回目：	〃
31回目：	6. バキュームテクニック 7. スリーウェイシリンジテクニック 相互実習
32回目：	〃
33回目：	暫間被覆冠作製実習 1. 既成冠を用いる方法(レジン冠)
34回目：	〃
35回目：	スタディモデルの作製実習 1. 印象採得 2. 石膏注入
36回目：	〃
37回目：	スタディモデルの作製実習 3. トリマーがけ
38回目：	〃
39回目：	暫間被覆冠作製実習 2. 印象採得を用いる方法、直接法
40回目：	〃

■ 科目別授業計画表

授 業 内 容	
4 1 回目：	スタディモデルの作製実習 4. ソーピング 仕上げ
4 2 回目：	口腔内写真撮影法（5 枚法）
4 3 回目：	2章 歯科診療における基礎知識 7-ラバーダム防湿 1. 基礎知識
4 4 回目：	ラバーダム防湿 基礎実習
4 5 回目：	ラバーダム防湿 相互実習
4 6 回目：	〃
4 7 回目：	4章 歯科材料と歯科診療の流れ・おもな処置と歯科材料の取り扱い
4 8 回目：	4-成形歯冠修復の補助 1. 基礎知識 2. 成形歯冠修復材の種類 隔壁調整法・歯間分離法（窩洞）
4 9 回目：	3. コンポジットレジンの取り扱い（実習 III級
5 0 回目：	4. グラスアイオノマーセメントの取扱い（実習 V級窩洞）
5 1 回目：	2章 歯科診療における基礎知識 4-歯科領域に必要な臨床検査 5-歯科診療補助における画像検査
5 2 回目：	3章 歯科臨床と診療補助 6-歯科麻酔時の診療補助 歯肉包帯材の取扱い（※実習）
5 3 回目：Ⅲ編	歯科衛生士がかかわる医科歯科疾患患者 1章 主な全身疾患とその対応
5 4 回目：	2章 周術期における歯科診療の補助 3章 歯科訪問診療における対応
5 5 回目：Ⅱ編	3章 歯科臨床と診療補助 1-保存修復時の診療補助
5 6 回目：	器具・器材確認実習 ①保存修復
5 7 回目：	2-歯内療法時の診療補助
5 8 回目：	器具・器材確認実習 ②歯内療法
5 9 回目：	7-矯正治療時の診療補助
6 0 回目：	器具・器材確認実習 ③矯正歯科
6 1 回目：	3-歯周外科治療時の診療補助 5-口腔外科治療時の診療補助
6 2 回目：	器具・器材確認実習 ④歯周外科 口腔外科
6 3 回目：	8-小児歯科治療時の診療補助
6 4 回目：	器具・器材確認実習 ⑤小児歯科
6 5 回目：	4-補綴治療時の診療補助

■科目別授業計画表

科目名	マナー実務	授業形態	演習
担当講師名	福士 友美		
科目内容	<p>歯科衛生士は歯科医師の補佐として、直接患者さんへ治療や虫歯予防に関するアドバイスを行う役割を担っています。したがって、専門的な知識だけでなく患者さんとのより良い人間関係を築くためにビジネスマナーは必須です。本講座は、社会人としての一般的なマナーを実践形式で学ぶことにより、各自が心づかいでできる人へと成長することを目的としています。</p>		
到達目標	<p>指示受けから業務報告の仕方等、職場で必要な基本姿勢を理解する。 社会人としてのより良いスタートが切れるよう、職場で実践できるようになる。</p>		
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 1 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	1 単位		
使用教材	レジュメを作成		
授業内容	<p>1回目：オリエンテーション ビジネスマナーの必要性</p> <hr/> <p>2回目：マナー実務基礎 服装、表情</p> <hr/> <p>3回目： 挨拶、しぐさ</p> <hr/> <p>4回目： 敬語</p> <hr/> <p>5回目： 報告・連絡・相談 電話応対</p> <hr/> <p>6回目：社会人としての常識 ご案内の仕方・席順</p> <hr/> <p>7回目： お茶・コーヒーの出し方</p> <hr/> <p>8回目： 仕事の進め方 結婚式・食事のマナー</p> <hr/> <p>9回目：より良い人間関係を構築するためのマナー実務 自己認知 1</p> <hr/> <p>10回目： 自己認知 2</p> <hr/> <p>11回目： 行動特性の確認 1</p> <hr/> <p>12回目： 行動特性の確認 2</p> <hr/> <p>13回目： 自分の長所を活かしたマナーの実践</p> <hr/> <p>14回目： 話し方・聴き方</p> <hr/> <p>15回目：試験解説</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	コンピュータ演習	授業形態	演習
担当講師名	伊藤 辰己		
科目内容	仕事をする上でコンピュータの使用は避けられないものとなっている。本授業では、一般に広く使われているMicrosoft社のWindows（オペレーティングシステム）、Word（ワープロソフト）、Excel（表計算ソフト）、PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を使い、書類等を作成するための技能を実践により身につける。		
到達目標	思い通りの書類等を作る技能を身につける		
授業時間	総時間数 <u>32</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 16]		
単位数	<u>1</u> 単位		
使用教材	テキスト（貸出）およびプリントを使用		
授業内容	<p>1回目：Word 簡単な文章の作成</p> <hr/> <p>2回目：Word 表の作成</p> <hr/> <p>3回目：Word 装飾の設定</p> <hr/> <p>4回目：Word 画像や図形の挿入</p> <hr/> <p>5回目：Word 課題作成、Excel データの入力</p> <hr/> <p>6回目：Excel 表の作成と装飾、関数の使用①</p> <hr/> <p>7回目：Excel 関数の使用②</p> <hr/> <p>8回目：Excel グラフの作成</p> <hr/> <p>9回目：Excel データベース機能</p> <hr/> <p>10回目：Word、Excel間の連携、Excel 課題作成</p> <hr/> <p>11回目：PowerPoint スライドの作成</p> <hr/> <p>12回目：PowerPoint 図形や画像、グラフの挿入</p> <hr/> <p>13回目：PowerPoint アニメーション 便利な機能</p> <hr/> <p>14回目：PowerPoint 練習問題</p> <hr/> <p>15・16回目：PowerPoint 課題作成</p>		
評価方法基準	授業態度および作成物で評価（100%）		

